

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500249		
法人名	有限会社 三愛商事		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	土佐市高岡町1684-5		
自己評価作成日	平成29年4月12日	評価結果 市町村受理日	平成29年8月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、住み慣れた地域の中で、ゆったりと安心して生活できるよう、常にいたわりと優しさをもって接するよう、日々取り組んでいます。また、入居者は和気藹々で楽しく暮らしています。町内会にも加入し、地域の方との交流も一層深め、家族の協力を得ながら、ともに支えあって行けるようなホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970500249-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970500249-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年5月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は古くからの民家が立ち並ぶ閑静な住宅地にあり、病院、市役所、商店街が近く、利便性の良い場所に位置している。地域の一斉清掃や自主防災訓練への職員の参加などを通じ、地域の方と挨拶をするなど地域の一員として交流している。避難警報発令時や集中豪雨時には、町内の人が安否確認にくるなど、地域に根付いた事業所である。

管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員間のチームワークは良好で、「住み慣れた地域の中で、一人ひとりがゆったりと安心して生活して行ける様支援する」という理念のもと、利用者の思いや暮らし方の希望を把握して、利用者本位のケアにあたっている。

また、家族に関わってもらうことを重視した働きかけにより、家族は日頃から気軽に事業所に訪れており、運営にも協力している。家族の積極的な協力もあり、年末には多くの利用者が外出し、外出しなかった利用者も家族が面会に訪れ、それぞれ家族との時間を大切に過ごすなど、職員と家族との信頼関係も出来ている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングや職員会を通してケアについての話し合い、地域密着型サービスの意義(理念)に基づき、意見交換しながら実践に繋げている	事業所設立時から掲げている「住み慣れた地域でゆったり安心して暮らせる」という趣旨の理念に基づいたケアについて、日々のミーティングや日常会話の中で常に振り返り、意見交換をしながら、ケアの充実や見直しを行っている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の一斉清掃、自主防災訓練への参加などを通し地域の方との交流を深め、時には花の苗や、花を届けてくださることもある	町内会に加入し、職員が地域の一斉清掃や自主防災訓練に参加するなど、地域の一員としての関係性構築に努めている。近隣住民からは利用者との外出時に声をかけられたり、野菜や花のおすそ分けをいただくことがある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問や運営推進会議等の中で地域の方との交流する機会を持ち入居者もしくは認知症の方への理解に繋げるようにしている		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では議題に基づいた話し合いや意見交換を行いサービス向上に活かしている	会議には民生委員、地域住民、家族代表、地域包括支援センターなどの参加があり、評価結果の報告や生活状況など議題に沿って意見交換を行っている。議事内容は詳細に記録されており、参加できない家族には議事録を送付している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の講習への参加や、運営推進会議などを通し相談や助言を受けたりしながら協力関係の構築に努めている	市の地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議等を通じて書類上の疑問点の相談や事故報告を行っている。市主催の研修には職員がローテーションで参加している。日頃から必要に応じて相談ができる関係性ができている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修を受け身体拘束をしないケアについて周知しており、入居者が出来る限り自由に暮らしていけるよう見守りを重視したケアに努めている	職員は身体拘束に関する研修を受けており、不適切な言動があればその場でお互いに注意するほか、毎日のミーティングで拘束をしないケアの確認をしている。現在外出傾向のある利用者があり、見守りづくりの体制に努めているが、危険防止のため家族の理解を得て玄関は施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	双方ともに、高齢者虐待関連法、高齢者虐待防止の研修に参加し、また、日々の生活の中で、入居者一人一人の身体状況を観察し変化があった場合は報告し意見交換している		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会主催の研修があれば参加し、職員会等にて発表し、知識を共有する機会を設け、必要時には各所に助言をしていただきながら、活用できるように支援している		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の読み上げを行い、不安や疑問点等について説明を行うように心がけている。また、担当者会等でも都度家族の思いを聞き説明を行い理解納得を図るよう努めている		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会や年に2回の家族会を設け、出来るだけ家族の意見要望を聞き、運営に反映できるように努めている	家族会は年2回開催されており、6名程度の参加がある。家族会の記録は欠席家族に郵送するほか、職員間でも共有している。家族が事業所を訪れたときなど、折に触れて意見を聞くようにしており、要望があれば職員間で話し合い改善に努める仕組みを作っている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の要望や提案を聞く機会は主に職員会や日々のミーティングにおいて行い、反映させている	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりを心掛けており、毎日のミーティングや業務の中で職員の意見や提案を聞いている。扇風機や台所用品の購入といった細かいニーズにはすぐに対応するなど、職員の意見を業務に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握し、必要時には育児休暇や傷病手当、労災などの手続きを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修を受ける機会を設け、研修報告書の提出(発表)などを通して、共に学び個々の知識の向上に努めている		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との情報交換を行い、時に交流の機会を設けネットワーク作りに取り組むよう努力している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、本人の要望や不安を聞き取り、改善解決できるように時には家族の協力を得ながら本人が安心できる生活の確保や関係づくりに努めている		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会や家族会日々の話し合いなどを通し家族が困っていること不安や要望について双方で話し合いながら進めていける関係を作れるよう努めている		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際は家族に説明し、また、家族の困っている事柄についても意見交換しながらともに協力しあう関係づくりに努めている		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入所者と共に笑い、助け合いながら、愛情をもって家族の一員として接し、共に生活していく同士のような関係づくりを築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との関係性を大切にしながら、家族の協力のもとでともに支えあえる関係を築いている		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容師、なじみの飲食店など家族の協力を得ながらその関係性が出来るだけ継続できるように努めている	家族の協力を得て馴染みの美容室や飲食店を利用するなど、関係が途切れないように支援している。とりわけ家族との関係継続を重視しており、年末には利用者と外出してもらったり、事業所に面会に来てもらうなど、家族と過ごす時間を大切にしている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握し、トラブルが起きないように、時に仲裁に入ったり、利用者が孤立しないよう配慮している		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も年賀状やお見舞いなど必要に応じてその方の現状把握に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で、入居者の言動や行動からその思いをくみ取り、意思疎通が困難な場合でも表情やしぐさ、家族からの情報などを得て、職員同士話し合いながら本人本位の支援が行えるよう努力している	生活歴の把握が困難なケースもあるが、利用者の日々の言動から思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には表情やしぐさ、家族からの話も参考にして、職員間で話し合いその人らしく暮らしていけるよう努めている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のアセスメント時やその後の聞き取りなどを参考にサービス利用の経過等の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者、心身状況、有する力等の現状は日々の生活の中で観察し、ミーティング等で職員間で意見交換を行い共有している		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の担当職員を決め、アセスメントを作成し定期的な担当者会にて家族からの要望や現状報告等を行い、必要なケアについての計画書を作成している	利用者毎に担当職員を決めており、3ヶ月に1回の担当者会には、ほとんどの家族の出席がある。家族からの意見や要望を聞き、利用者の特性に合わせた介護計画を作成している。また、利用者の状態や変化に応じて随時見直しをしている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録、申し送りノート、医療ノート等に記録しミーティング等にて情報を共有しケアの統一化を図り、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者および家族の希望要望を聞き、可能な限り(範囲)で依存のサービス以外の通院受診、手続き等の代行も行っている		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの慰問の受け入や他の施設イベントへの参加などを通して安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し、納得が得られたかかりつけ医との関係性を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関で受診している。受診には家族の協力があり、情報提供ノートを渡して基本的に家族が付き添っているが、家族の状況によっては、職員が同行している。受診結果は個人記録に保管し職員で情報共有している。受診の事前連絡や結果の確認など、医療機関との連携もとれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護および協力病院等の看護師に現況説明、報告相談しながら適切な受診が受けられるよう支援している		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者のアセスメント時やその後の聞き取りなどを参考にサービス利用の経過等の把握に努めている状況等を情報交換(関係機関)を行い安心して治療が受けれるように支援している		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化等の対応については、家族に現況説明や今後起こりうるリスク等についても毎月のお手紙や面会時等を利用し行っている。また事業所で出来ることも説明しながら方針を共有しともにチームで支援している	重度化や看取りの指針を入居時に利用者、家族に説明し、同意を得ている。担当者や面会時、また家族への手紙の中で利用者の身体状況を家族に報告している。家族は入院を希望しており看取りの事例はないが、希望があれば事業所での対応について、医療機関、家族、職員と話し合うことにしている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	簡単なマニュアル作成とともにミーティングや職員会を通して初期対応など実践に活かせるように話し合いを行っている		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での防火防災訓練および地域の自主防災訓練への参加を定期的に行い地域の協力が得られるような関係性を築けるようにしている	年2回防災訓練を夜間想定を含めて行い、うち1回は消防署の立ち合いがある。地域の緊急連絡網に事業所を入れてもらい、地域との協力関係構築に努めている。家族代表を中心に家族だけの連絡網も作成されている。職員手作りの防災ずきんのほか、備品や食糧の備蓄は3日分以上を確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護側の声のトーンや言動について日々注意しあいながら日々のケアにあたっている	尊厳等に関する研修に参加し、日々のケアにおいて、利用者の人格を尊重し、職員の言動が利用者の尊厳を損ねないよう注意を払っている。気になる言動があったときは、その場でお互いに注意しあっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に関しては、可能な限り自主決定ができるように家族にも相談しながら行っている		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく入居者側に立ったケアを目指し、ミーティングで話し合い方向を決めて取り組んでいる		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力も得ながらその人らしい身なりやおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように愛情をこめた手作りの食事を心がけ、入居者も準備や台拭きなど出来る範囲で行っている	協力病院の栄養士が作成した献立を参考に、職員が調理している。利用者は台拭きや野菜切り、エプロンたたみなど出来ることを手伝っている。利用者が自分で食べられるよう、刻み食など食べやすい形態で提供し、家庭的な雰囲気の中かで職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表を作成し、状況を見ながらその方に応じた支援をしている		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアや見守りを行い必要な方には歯科訪問にて口腔ケアを依頼し清潔保持を心がけている		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントや日常生活の中でその方の排泄パターンを把握し、出来るだけおむつを使用しないようトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、必要な利用者にはトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄の自立に向けた支援に努めており、日中は布パンツで自立の利用者が多い。病院でオムツだった利用者が事業所に来てから、声かけ等の支援により布パンツに移行した事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分量形態にも注意しながら、毎日の活動量(体操、散歩、歩行訓練)などを行い、また、DRにも相談しながら個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には2日に一度に設定はしているが必要に応じて臨機応変に行っている	利用者の希望や体調に合わせ、少なくとも2日に1回の入浴支援に繋げている。褥瘡のある利用者が毎日入浴することで治癒した事例がある。水虫の利用者には毎日足浴を行ったり、敏感肌の利用者には専用のボディソープを使用するなど、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を重視しながらその時の状況に応じて休憩したり安心して眠れるように支援している		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々の状況をDRに相談しその指示の下で薬のセットを行い服薬支援と症状の変化の確認に努めている		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が喜びを見い出せる日々を過ごせるよう、その方の力を活かした、役割や嗜好を見つけ、気分転換を図っている		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族にも協力を得ながら、その方の希望に添って出来る範囲で戸外に出かけられるような支援をしている	利用者の高齢化に伴い、散歩は減少傾向にあるが、季節ごとの花見やドライブなど気分転換できる機会を設けている。車椅子の利用者も現状維持に向けて出来る限り外出の機会を設け、外気に触れ気分転換できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方個人の希望にてお金を所持し、使用に関しては職員が買い物代行や一緒に買い物に出かけている		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方に自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が、入居者にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう、生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう支援している	共用空間の食卓やソファは利用者が動きやすいように配置されている。壁には季節に合わせた折り紙飾りや、植物が飾られており、落ち着いて過ごせる空間になっている。玄関外の花壇では花や野菜を栽培し、季節感を採り入れている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自由に入居者が過ごせるよう配慮している		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人も居室は家族や本人と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かしたものとなっており、居心地よく過ごして頂けるようにしている	居室には、これまでの生活感が継続できるよう使い慣れた家具が置かれ、家族の写真や習字を飾った部屋、利用者が作った折り紙飾りを貼った部屋、昔書いた絵を飾った部屋など、利用者それぞれが居心地よく安心して暮らせるようにしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかる事」を活かして、時々見守りをしながら安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している		

ユニット名：

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				